

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		すまいる・ステップ	公表日		2024年11月30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		ランチルームを利用児の切り替えるスペースとして利用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		会議にて共有し、協議しています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日々の打ち合わせで翌日の改善などが反映されています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	練馬区の訪問指導を受け、業務改善を行っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者の皆様に5領域に基づいたアセスメントを行い作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		職員間での対応方法を共有し、うまくいったものを統一して行っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		ケース検討会に全職員が参加。計画案を協議し周知しています。また、毎日のミーティングにおいてどこを支援するか明確にして支援しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		計画書の形式が大幅に変わる中、職員全員で計画書を作成する機会を設けたことは、支援内容を考える上でも、支援を行っていく気持ちの上でもとても良かったです。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		・様々なプログラムがあっっています。 ・チームで立案し、会議にて内容を協議しています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		活動プログラムを更にブラッシュアップしつつ、月曜活動で行い良かった活動を新たに取り入れています。	

提 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日打ち合わせを行い、チームで支援の確認を行っています。朝の打ち合わせに全員が参加できることは強みになっていると思います。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	5		毎日支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しています。終礼にいない職員には、翌日の始業ミーティングの際に伝えていきます。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		終業時に出た意見を基に、常に改善するよう努め、より良い支援を目指しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		「こどもが主体的に参画できる活動」として、子供からの要望に応えペーゴマを導入。子供たちとルールを作り番付表など楽しく取り組める工夫を行いました。	「地域交流の活動」として、今後もボランティア団体の受け入れを行ってまいります。また、通所されている利用児の兄弟(中学生以上)ボランティアも検討していきます。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		視覚カードを用いて遊びの選択や意思の確認をしています。また、設定活動の「参加・不参加・見学」を選択できるようにしています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		今年度サービス担当者会議はありませんでしたが、相談支援事業所や関係機関と電話による連携を児童発達支援管理責任者が行いました。また、家族面談に相談支援員の同席をお願いしたケースがあります。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5		法人内の児童発達支援事業所から移行の場合、情報共有を行っています。また契約面談時に、通われていた事業所の情報を保護者より頂いています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		法人内の事業所へ移行の場合、情報提供を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5		職員全員が年1回以上の研修会への参加や必要に応じてスーパーバイズの研修を受けています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	難しいと思います。	通所されている利用児の兄弟(中学生以上)ボランティアを検討していきます。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		4		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		・保護者会の折に、研修会を実施致しました。また、ご希望による家族面談の際にペアレント・トレーニングを行わせて頂きました。 ・個別に可能と思われる方法等を提供していると思います。		
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		利用契約時に詳細な説明を行っています。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		今年度は新しいガイドラインの説明と合わせて、本人支援の5領域部分をコピーして、ねらいの部分をお伝えするようにしました。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		ご心配な事や課題について、多くの方から電話や家族面談にてご相談を受けました。また、相談内容に応じて、Vineiad II等のアセスメントを作業療法士が行いました。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		7月に保護者会を開催し、保護者会の中でグループ座談会を実施致しました。他者紹介やテーマを決めた懇談を用意しました。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		今年度苦情はありませんでしたが、契約時に苦情対応窓口について必ずご説明しています。	
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		毎日個別のお便りを発行しています。また年間計画表を発行し、面談や夏の行事などは早めにお便りをお渡ししています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者への情報伝達に関しては職員で必ず共有し、対応を含めてお話をするようにしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	近隣施設への買い物や、「お話の会」のボランティア団体の受け入れを行い、事業所を知って頂く機会となりました。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		マニュアルに基づいた訓練を実施しています。保護者の方々にも、災害伝言ダイヤル等の訓練に参加していただきました。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		都度確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの申し出により、食物アレルギー対応を致しました。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、運動器具や部屋のチェックリストを基に必要な措置をしています。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		保護者会にて安全計画の書類を配布し、ご説明を致しました。また大規模災害についてのお知らせを年に一度配布して説明しています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		必ず共有して、検討しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		外部研修会への参加、また社内において虐待研修を行いグループワークにて話し合いをしています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		研修の中で支援方法について常に話し合い、計画書に記載をしています。		